

# 庄原市行政評価シート

令和2年度評価

事務事業名	庄原市さとやま体験交流協議会負担金
-------	-------------------

所管	企画振興	部	商工観光	課	
実施期間	平成 26	年度～	令和	年度（終期設定が無い場合は終期を空白）	
予算科目	会計	款	項	目	事業
	01	07	01	03	4201
	一般会計	商工費	商工費	観光交流費	観光交流事業
対象者	庄原市さとやま体験交流協議会			対象者数など	交付者数:1団体
根拠法令等	特になし				
HPアドレス					
実施目的	庄原市の強みである人と自然、農林業、生活文化などの地域資源を活用した体験交流型観光を推進し、都市と農村との交流を深めることにより、市民がいきいきと暮らし、庄原ファンを増やし、観光および農林業振興、定住推進など地域活性化に資することを目的とする。				
事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験型教育旅行の受入事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型教育旅行の受け入れ</li> </ul> </li> <li>○民泊受入体制の強化事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊の普及啓発活動</li> </ul> </li> <li>○会員（民泊家庭）のスキルアップ研修事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルアップ研修等の開催</li> </ul> </li> <li>○プロモーション事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会と一緒に、関西・北陸圏、九州圏、首都圏、中部圏の旅行会社へプロモーションに行く。</li> </ul> </li> </ul>				
年度別実績概要	平成 29 年度	体験型教育旅行の受入実績:6校 1,190名			
	平成 30 年度	体験型教育旅行の受入実績:3校 599名			
	令和 元 年度	体験型教育旅行の受入実績:4校 462名			

実績指標 (単位:千円)

事業費 (インプット)	項目	内容	H29	H30	R1	計
	事業費	負担金		1,200	690	850
						0
						0
計			1,200	690	850	2,740
財源	国県支出金					0
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		1,200	690	850	2,740

実績 (アウトプット)	指標名称	単位	基準値	H29	H30	R1	計
	実績 (アウトプット)	1 体験型教育旅行の受入校	校		6	3	4
2 体験型教育旅行の受入人数		人		1,190	599	462	2,251
3 民泊登録家庭数		軒		195	184	175	554
成果 (アウトカム)	1 備考欄に記載						
	2						
	3						
備考	毎年受入校に対しアンケートを実施しているが、概ね9割の回答が満足となっている。						

# 庄原市行政評価シート

令和2年度評価

事務事業名	庄原市さとやま体験交流協議会負担金
-------	-------------------

評価項目	所管課	市民意見	評価委員会	評価平均(上段)・分布(下3段)	
(評価は、A=1,B=0,C=△1とした平均値で、A,B+,B,B-,Cの5段階判定)				市民意見	評価委員会
<b>優先度</b>	A	B	B+	0.0	0.3
A 同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。				1	2
B 同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。				2	5
C 同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。				1	0
<b>認知度</b>	B	A	B+	0.5	0.3
A 対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。				3	2
B 対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。				0	5
C 一部の者を除き、事業があることすら知られていない。				1	0
<b>有効性</b>	A	B+	B+	0.3	0.4
A 費用に対して、効果・成果が高い事業である。				2	3
B 費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。				1	4
C 費用に対して、効果・成果が低い事業である。				1	0
<b>受益者満足度</b>	A	-	A	-	0.7
※受益者: 庄原市さとやま体験交流協議会					
A 受益者(対象者)は、満足している事業内容である。				0	5
B どちらともいえない。				0	2
C 受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか)				0	0
<b>市民(納税者)納得度</b>	A	B+	A	0.3	0.7
A 目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。				2	5
B どちらともいえない。				1	2
C 目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。				1	0
<b>代替性</b>	B	B	B	0.0	0.1
A 収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。				1	1
B 民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。				2	6
C 市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。				1	0
<b>まちづくり基本条例適合性</b>	B	B	B	0.0	0.0
A 市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。				1	0
B 市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。				2	7
C 条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。				1	0

所管課評価	現行どおり
-------	-------

視点	観光交流人口の拡大だけでなく、関係人口も拡大し、庄原市を応援していただけるネットワークが広がっている。人口減少が進む中、観光交流人口および関係人口の拡大、そして民泊家庭の皆さんの生きがいづくり等につながる本事業は、今後も必要とされている。
課題	今後、さらなる誘致数を増やしていくため、民泊登録家庭数の拡大や、庄原らしい体験プログラムの開発・育成が求められている。

事務事業名 庄原市さとやま体験交流協議会負担金

**市民意見  
(プラモニ)**

※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。)

※全意見は、ホームページに掲載しています。

分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し	総回答数
	1	1	1	1	0	4
主な意見	<p>【現行どおり】 庄原市にしかないものを、積極的にPRしてほしいと思います。地道に庄原の魅力を発信することを継続していくべきと考えます。</p>					
	<p>【縮小】 コロナ感染拡大の中、現状、優先度が問われるのでは。</p>					

事務事業名 庄原市さとやま体験交流協議会負担金

**行政評価  
委員会評価**

**現行どおり**

※行政評価委員会の摘録(会議内容)はホームページに掲載しています。

**総括  
意見**

受入家庭・地域の活性化につながる、庄原市の強みを生かした農村と都市の交流である本事業は、人口減少が進む中で今後も継続すべきであり、「現行どおり」とする。なお、受入家庭・誘致数拡大のため、次の点について検討されたい。  
 ①より良い受け入れ体制整備のための研修を継続し、意識・意欲の向上に努めると共に、受入家庭の増加・継続を図るための負担軽減策(民泊と施設等の宿泊を併用する等)を講じること。  
 ②本事業について広く市民に周知し、庄原らしい体験プログラムが継続・拡大(対象者・期間・内容)できるよう理解と協力を求めていくこと。

※委員会における最終的な評価として総括したもので、分布の多い評価を優先するものではありません。



分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し
	7				

**【現行どおり】**

各委員の意見

- ①人口減少が続く中で、庄原市の自然や生活文化などの強みを生かした取り組みは、今後ますます重要になってきます。本事業は都市と農村の交流を深めることや、定住促進・地域活性化につながる事業であると思う。
- ②広島湾ベイエリア加入市町は沿岸部が多く内陸部が少ない、本市としては「山」「川」などの自然や「農林業」などの特徴を生かした体験メニューを広くPRを行い多くの学校を呼び込むことが必要と思われる。一方受入家庭においては継続性を必要とすることから、他地域への研修や交流などで受入家庭の意識の高揚に努めていただき、本事業を広く市民に周知する体制をとり多くの市民への理解と協力を求める必要がある。
- ③次代を担う子供たちが自然と触れ合い庄原の良さを肌で感じる体験型の観光交流事業であると捉えている。このことから非常に効果のある事業のひとつと考える。所管課の課題にもあるように予算は余すことなく知恵を出し庄原らしい特化した魅力のあるプログラムの開発にもっと力を注ぐ事を望む。
- ④庄原市の魅力を発信するにはよい事業と考えるが、修学旅行を中心とした事業であると感じ、それを観光と捉えるのは難しいと思う。  
民泊も修学旅行に特化するため、学習の観点からの付随事業と感じる。  
観光・交流人口を増やすためには、通年で提案できる(修学旅行用のメニューではない)体験型も含めた観光資源の整備が必要と感じる。
- ⑤庄原ファンを増やし、観光及び農林振興、定住推進など地域活性化に資する施策として、有効な施策と思います。ただ、同様な取り組みは、多くの自治体で取り組んでおり、他の自治体との体験メニューの差異化により庄原市を選んで頂く取り組みが必要と思います。  
そのためには、どのようなプログラムを持っているかが肝要だと思います。
- ⑥庄原市の強みを生かし、都会の子どもたちとの交流を深めるためには、良い事業だと思います。実際に、最初は躊躇されていても、一度経験してみると、「民泊は楽しい」と感じられるご家庭が多く、それだけでも大きな出来事ではないでしょうか。都会に生まれ育つ子どもたちの中には、畑や農作業を「見る」機会すら、なかなかない子どもたちもいます。同じ国に住んでいながら、まったく違う生活環境にあるということは、どの国でも起こっていることだと思いますが、日本の場合は戦後の都市づくりの際、急激に以前との連続性が失われました。このような事業を通じて、都会の子どもたちが、日本の気候風土と、それに根差した「暮らし」を経験することは、非常に大切なことだと思います。
- ⑦違う環境に身を置くことは子供たちの成長の上でとてもいい経験になると思う。長く続けていくために、受け入れ家庭の負担を軽くすることは大事であると思う。子供たちのアレルギーの問題もあり、食事や布団、ペットなど気を使わなければいけないことが多い。1件当たりの受け入れ人数を減らす、キャンプ場・廃校を転用した宿泊施設の利用なども検討してはどうだろうか。

**今後の事業  
実施の方向性**

**現行どおり**

**詳細**

現行どおり事業を実施し、本市の強みを生かした農村と都市の交流を図ることにより、観光交流人口及び関係人口の拡大、民泊受入家庭の皆さんの生きがいづくりに取り組む。  
 なお、本市の特色を生かした新しい体験プログラムを造成するとともに、受け入れ家庭の増加・継続を図るための体制を整備する。

**備考**

予算額 令和3年度:850千円  
 令和2年度:850千円